

千葉県循環器病対策推進協議会 令和4年度第2回脳卒中部会開催結果

1 日時 令和5年3月15日（水） 午後7時から午後8時まで

2 開催方法 オンライン開催

3 出席委員

（委員：総数名12中10名出席）

本宮委員、鮫島専門委員、小林（英一）委員、古口委員、小林（士郎）委員、寺口委員、浅野委員、田中委員、角南委員、金江委員（順不同）

※ 瀬瀬専門委員、高原委員は所用により欠席

4 会議次第

（1）開会

（2）挨拶

（3）議事

ア 令和4年度循環器病県民啓発事業について

イ その他

（4）閉会

5 会議概要

○ 令和4年度循環器病県民啓発事業に関する主な意見について

<脳卒中患者支援手帳>

- ・ 23 ページ「医療機関での支払いを最小限に抑える」とあるのを、「限度額適用認定証」に改める。もしくは、「医療機関での支払いを最小限に抑えるには」に改めるのはどうか。
- ・ 患者さんに書いてもらおうという意識や意図が強い冊子となっている。紙媒体での提供に加えて県ホームページに電子データを掲載することを考えているのであれば、書いてもらう部分を工夫しないと結局使ってもらえないのではないか。
- ・ 次年度以降の印刷費の確保に関して、著作権は県が持っているので、県の許可を得た会社が印刷して配るという方法もある。
- ・ 病気の理解や適切な情報の供与、治療を受ける上での困りごとを解決する手段、自分の情報を整理するツールとして使っていただけたらと思う。最後には情報サイトが入っていて、ウェブ上でクリックすると、サイトに飛べるようになっている。もっと詳しく知り

たい方はこういうサイトに飛んでいただければ、より正確なアップデートされた情報が得られる。

<リーフレット>

- 短時間で出た場合または短時間で収まった場合、「早めに」ではなく、「当日に」専門の医療機関を受診しましょうと記載していただきたい。ガイドラインでも可及的早期に医療機関を受診するという事になっているので、翌日まで待ってはいけない。
- リーフレットの記載内容に関し、救急車を呼ぶ場合と当日受診をする場合の症状があまり変わらない。どの時点で救急車を呼ぶのかなど、一般の方は悩むのではないかと思う。顔の麻痺、腕の麻痺、ことばの障害というのは、救急車を呼ぶ方にも、当日受診する方にも同じように書かれているので、ここの違いをもう少し出さないと患者さんは悩むのではないか。
- TIA の時も症状が出たらすぐに医療機関を受診しなければいけない。しかし、実際には脳卒中の症状が出た後で様子を見てしまう人たちがすごく多い。そういった意味で、持続時間が長く続いているから救急車を呼ぶというよりも、実際には、症状が出たところで救急車を呼んでもらうとよい。病院に着いて症状が消えたということは、脳卒中の専門機関では許容される。そこから治療にすぐ入ることができる。そういった意味で、同じ症状が繋がるのはいいかと思う。
- リーフレットを見たときに、一番何を伝えたいのかがよく分からない。両面印刷だと、片面しか見ないかもしれない。なぜ同じような情報を両面に入れるのかと。こういう人は救急車を呼んで欲しいというメッセージにしたいのであれば、片面だけでもいいような気がする。一方、救急車を呼ぶほどではないが、本当にすぐに受診したほうがいい、相談したほうがいいというメッセージを伝えるのであれば、それはそれで1枚にしてもいいような気がした。一番これで何を伝えたいのかっていうのを大事にしたほうがいい。
- 裏側を文字だけにするなど、表裏で強弱を付けてはどうか。表面を上にして置いてもらい、裏面を見たら「FASTの症状が短期間で収まった場合はその日のうちに、ご家族の車で来れる方はいらしてください」というように文字で書いてもいいと思う。
- この症状が出たら絶対に救急車を呼んで欲しいというメッセージをしっかりと伝えた上で、症状が収まっても安心できませんよというメッセージもしっかり伝えておくということが重要。

6 閉会 午後8時00分